

慶応二年八月十一日より慶応二年八月十六日まで

P8310615 right

洞察し応接の義願弥一へ托し達書遣わす、松盛斎稽古に来る、出 殿長崎方へ、川網
代三疋分を納む、ご機嫌伺として四つ時惣出仕あり、平服也、

十二日 戌 陰

出 殿、周助方へ□物資(三方)手向け遣す、須崎伯母義姫(よめ)を伴い孫女□同道

来る趣初めて来りしにて蒸菓子一折鯉ぶし□添持参、酒肴を設けゴロー袱地(*二天鷲絨半襟地
□を遣す、よしめは泊宿、周助□□の調□さし越す

十三日 亥 陰夕前雨

柳亭稽古に来る、菊池より屋敷の□願振合借受に来る貸遣す、出 殿詰番黄昏退出

柳亭一泊

P8310615 left

十四日 子 晴

須崎(常) 来る、番町より使し庭前の菓実少許贈り越す、出 殿、墨陀邸より野菜少許差越す

山本(長) 来る酒飯を設く

十五日 丑 晴漸に陰無月

調桁宅調、保三来る、竹内野州(下野守)此の□製氷器□法書とも為持遣わす、金井(源)来り面す、原

(喜太) 来り面す、末□身分の義願也、木村甲州へ過日の謝辞として鮮魚一籠二方□遣す、医長春院

南洋へ周助□□謝としてラシヤ羽織地五疋づつ添遣す、□粉を醸す、周助代り山崎才輔見□に来る

十六日 寅 陰夕前より雨

松盛斎稽古に来る、笠原(常)来り蒸菓子一筥持参、三□頭取の義、願の趣に付、縷々申聞る、出

*「天鷲絨（ビロード）毛羽でおおった織物の総称

（）内は細字双行（一行に小さい文字で二行書き）などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。